

地域おこし協力隊の活動日記



文 / 生島 亜由美 隊員

5月から豊浦町の農家さんのお手伝いをさせていただいています。5月と6月は「豊浦いちごの旬」ということもあり、主にいちごの収穫作業のお手伝いをしました。また、礼文華観光農園の受付スタッフも経験させていただきました。この2カ月間で感じたことは、「農業って大変な仕事」ということです。農家さんは、出荷時間に間に合うよう朝早くから収穫作業をされ、収穫後はひとつひとつ手作業で選別をされていました。天候によっていちごの状態が変わるため、ハウスの温度管理などもされていました。農家さんの作業を間近で見たり、お手伝いさせていただく中で、「農業って大切な仕事」とも感じています。普段当たり前のようにスーパーで野菜や果物を買っていましたが、だんだんと見方も変わってきました。

豊浦町ではいちごをはじめ、色々な作物が作られているので、援農活動を通して豊浦町の「土地の恵み」を学んでいきます。

観光農園では、お客さんの笑顔を見ることができ、「人を笑顔にするいちご、素敵だな」と思いました。

た。豊浦町で大切にされているものを学びながら、豊浦町の新しい魅力も知っていきたいです。今後ともよろしく願いいたします。



▲8月下旬、アサツキの球根を植えました。

協力隊の活動はフェイスブックで発信中です！

 Facebook

<https://www.facebook.com/toyoura.chiikiokoshi/>

町長からのそよ風だより 第50回

町長から身近な話題や皆さんへのメッセージを紹介します。

暑かった夏も、不順で朝晩には肌寒さを感じる今日この頃、町民の皆様には益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。

8月5日、北海道150年記念式典が札幌市の道立総合体育センター「北海きたえーる」で天皇・皇后両陛下ご参列のもと、盛大に開催されました。

天皇・皇后両陛下は、お互いに手を携えて階段を上り下りするなど、仲睦まじい姿にあらためてお優しいご夫婦であることに感動を覚えました。

いつまでも、お元気でお過ごしいただくことを切に願うところであります。

式典のテーマは、「先人に学び、未来へつなぐ」であり、北海道知事である高橋はるみ氏の式辞などに続き、アイヌ民族の伝統芸能や松前神楽、江差追分や「イランクラブテ大合唱」が披露され盛大な拍手を受けていました。

北海道と呼ばれて150年、これからの50年・100

年を見据えた夢と希望に溢れた活力ある北海道を築いていく次世代を担う若者に大いに期待するところであります。

さて、前回お知らせいたしました「幸豊ハイツ移転計画」につきましては、伊達市大滝区にあります「おおたきの杜」の老朽化により、至急建て替えをしなければならない状況であることが分かったことから、「幸豊ハイツ」および「おおたきの杜」の合築など、根本的な見直し(80床から120床への増加等)が不可欠となったことから、町内への「幸豊ハイツ」移転を断念する旨の申し入れがありました。本町の将来を考えますと、誠に残念でならないものと思います。

今年は、まだまだ安定せず不順な天候となっておりますので、体調管理には十分気をつけていただき、元気で健やかに過ごしていただきますようお願い申し上げます。